

遠地長期避難者に対する受入側の支援方法（その2）

-東京都江東区「東雲住宅」における受入側の支援と自主活動の関係-

会員種別 ○森本健介*
同 永井健太郎*
同 倉持康平**
同 志村秀明***

遠地避難者 長期避難者 受入側の支援
東雲住宅 避難者交流組織 避難者有志組織

1. 研究の背景と目的

本稿では、前稿（1）を踏まえ、遠地長期避難者への受入側の支援と自主活動との関係について明らかにする。

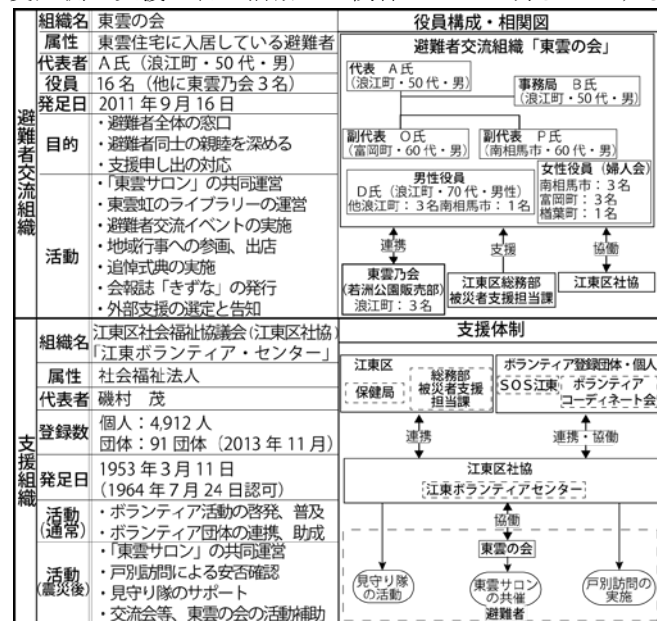


図1 「東雲の会」と江東区社協の概要・体制

2. 研究の方法

本稿はヒアリング調査^{注1)}に基づき、避難者交流組織への受入側の支援と自主活動との関係、及び避難者有志組織への受入側の支援と自主活動との関係を示す。

3. 避難者交流組織への受入側の支援と自主活動との関係 3-1 「東雲の会」と江東区社協の概要・体制（図1）

「東雲の会」は、「避難者全体の窓口としての役割」、「避難者同士の親睦を深める」等を目的に発足した。

3-2 受入側の支援と自主活動との関係（図2）

江東区は、2011年5月被災者支援担当課を設置し、支援を本格化した。そして、東雲住宅の避難者増加に伴い、窓口が必要となり、7月に地元自治体別の交流会を実施した。そして、避難者の地元自治体毎に代表者を選出し、世話人会を発足、その後9月に「東雲の会」が発足した。江東区社協は、一時避難所運営支援や、被災地への物資提供支援を行っていたが^{注2)}、江東区に支援を打診し、その後、「東雲の会」と共同運営で東雲サロンを開始した。保健局は、避難者入居当初から出張健康相談を実施し、戸別訪問も開始した。その後、江東区社協が実施している。その後、江東区社協の提案を受け、「東雲の会」役員

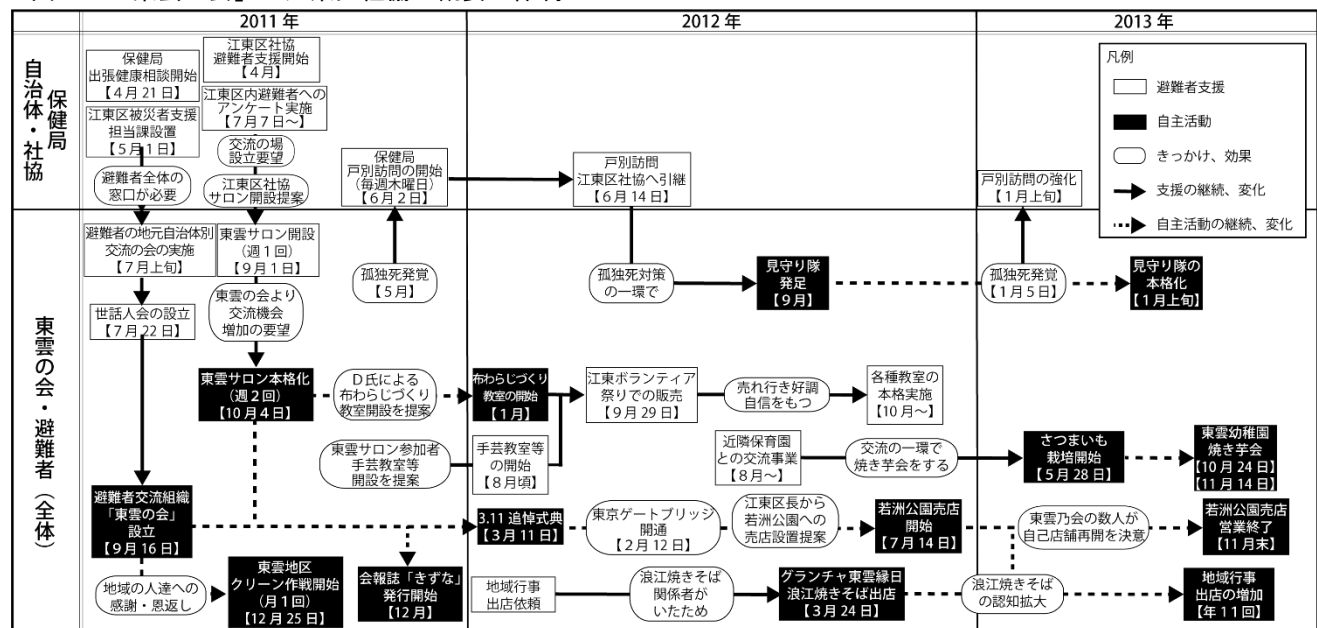


図2 自治体・社協の支援と「東雲の会」の自主活動との関係

が中心となり見守り隊を発足した。

東雲サロンは週1回だったが、2011年10月から共同運営で週2回に増やした。その後、D氏が契機となり、布わらじづくり教室が始まった。以降、手芸教室等も始まった。その成果を「江東ボランティアまつり」で販売し、各種教室が本格的に行われるようになった。東雲地区クリーン作戦は、東雲地区への恩返しを目的に開始した。また、会報誌「きずな」発行は、支援等の情報を周知することを目的に開始した。東京ゲートブリッジ開通を契機に若洲公園売店が始まった。東雲乃会の数人が自己店舗の再開を決意し、2013年11月に終了した。

4. 避難者有志組織への受入側の支援と自主活動との関係

4-1 避難者有志組織とNPO法人の概要・体制(図3)

KSPは、「子育て世代避難者の交流促進」等を目的に結成された。

4-2 受入側の支援と自主活動との関係(図4)

ワーカーズコープは、東雲住宅に避難者が入居してい

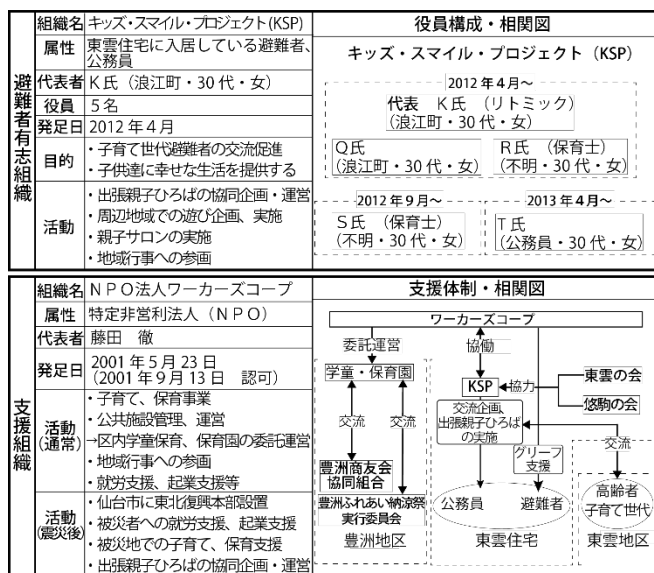


図3 KSPとワーカーズコープの概要・体制

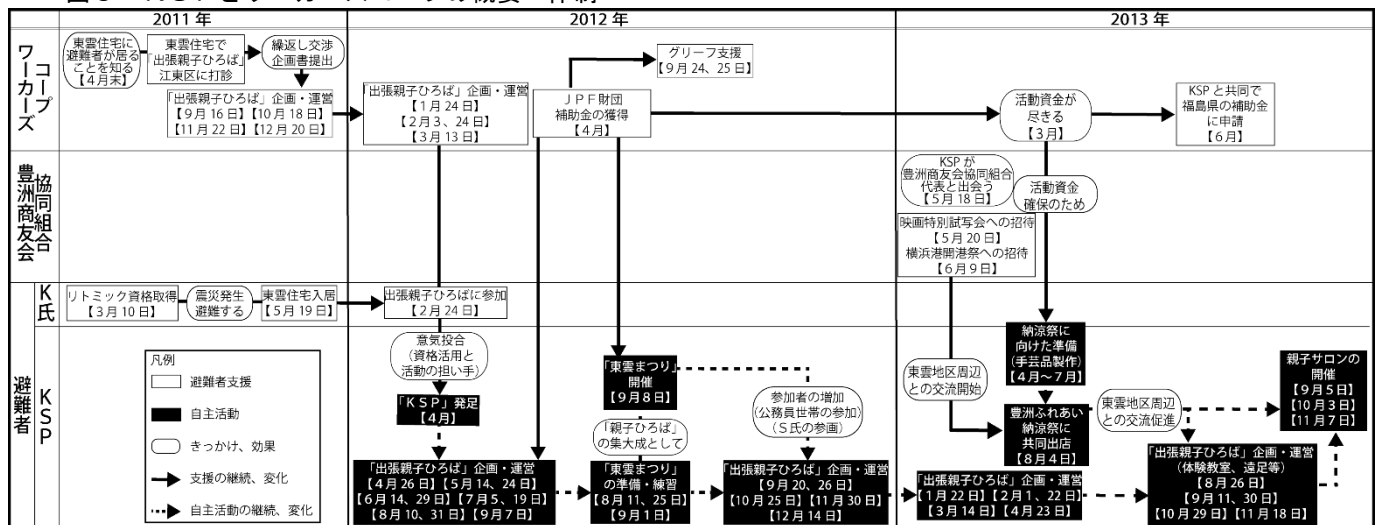


図4 ワーカーズコープの支援とKSPの自主活動との関係

ることを知り、2011年9月から「出張親子ひろば」を開始した。ワーカーズコープが2012年2月に子育て世代避難者のK氏と知り合い、子育て世代避難者によるKSPが4月に発足した。出張親子ひろば運営を中心に自主活動が始まり、KSPが企画・運営を行い、ワーカーズコープが支援する体制となった。

出張親子ひろばは、2012年4月から開催頻度が増加した。「東雲まつり」に参画したことで子育て世代避難者の参加が増加し、公務員世帯も参加するようになった。2013年に、活動資金がなくなったため出張親子ひろばを多く実施できなくなった。ワーカーズコープは、KSPと共同で福島県の補助金^{注3)}に申請した。その頃、KSPは豊洲商友会協同組合代表に出会い、東雲地区周辺との交流が始まった。ワーカーズコープとKSPは、豊洲ふれあい納涼祭に共同出店し、地域との交流が深まり、出張親子ひろばは、東雲地区周辺住民も一緒に教室等を行うようになった。KSPが単独で行う「親子サロン」が始まり、自主活動は母親も楽しめる活動へと展開した。

5. まとめ

本稿で示したことは以下の通りである。

- ・受入側の自治体の支援により、避難者交流組織「東雲の会」が発足し、江東区社協と保健局の支援を受けて、共同活動を開始した。その後、自主活動が始まった。
- ・ワーカーズコープの支援により、避難者有志組織であるKSPが発足し、共同で出張親子ひろばを企画・運営することになった。その後、KSPは東雲地区周辺の行事に参画することで、出張親子ひろばへの参加者が増加すると共に、自主活動が活発化した。

注釈

注1)「東雲の会」・江東区社協・被災者支援担当課に2012年4月～2013年11月ヒアリング調査を行った。主に、「東雲の会」代表A氏のスケジュール帳に基づき分析した。また、出張親子ひろばを開催しているワーカーズコープの担当者・KSP代表のK氏に2013年8月～11月ヒアリング調査を行った。

注2)2011年3月22日に区内の一時避難所、3月25日～4月10日に支援物資、4月10日～24日に東京ビックサイトの避難所運営補助対応をしていた。

注3)2013年度福島県助成金「寺子屋事業」。

*芝浦工業大学大学院理工学研究科建設工学専攻 修士課程

**玉野総合コンサルタント

***芝浦工業大学工学部建築学科 教授・博士(工学)

*Graduate School, Shibaura Institute of Technology

**Tamano Consultants

***Prof/Dept. of Architecture, Shibaura Institute of Technology